

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和4年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 150-0031

所在地 東京都渋谷区桜丘町9-18-104

評価機関名 株式会社ウエルビー

認証評価機関番号

機構 03 - 065

電話番号 03-5428-5785

代表者氏名 代表取締役 青木正人

以下のとおり評価を行いましたので報告します。



評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	雲雀信子	福祉	H0502079
	②	高橋利明	経営	H2101092
	③	亀井恵美子	経営	H0701104
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	SAKURA保育園谷在家			
事業所連絡先	〒	123-0863		
	所在地	東京都足立区谷在家2-14-13		
	TEL	03-5647-9336		
事業所代表者氏名	園長 牛島祐美子			
契約日	2022年 7月 1日			
利用者調査票配付日(実施日)	2022年 7月 11日			
利用者調査結果報告日	2022年 8月 19日			
自己評価の調査票配付日	2022年 7月 11日			
自己評価結果報告日	2022年 8月 19日			
訪問調査日	2022年 8月 24日			
評価合議日	2022年 8月 24日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査は保護者へのアンケート方式で行いました。訪問調査は、事前資料の読み込み、職員の自己評価結果、利用者調査結果をふまえて評価の視点を評価者で共有しました。インタビューは、園長先生、主任先生にご出席いただきました。yazaik@jikou-m.jp			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名

牛島祐美子



	標準項目	事業者が特に力を入れている取り組み
定義	東京都内の福祉サービス事業者が、福祉サービスの質の向上を図る観点から、標準的に実施していることが必要であると認められる事項、または、実施するための仕組み(取り組み)があることが必要であると認められる事項をいう。	事業者が力を入れている取り組みのうち、次のすべてに該当する取り組みであること。 ア 当該評価項目のねらいに合致した取り組みであること イ 当該評価項目に属する標準項目を少なくとも1つを満たしていること。 ウ 創意工夫、独自性や先進性などの観点から、利用者の選択情報や他の事業所のサービスの質の向上のモデルとして評価できる取り組みであること。
確認方法	標準項目を確認したものとするができるのは、次のすべてを満たした場合とする。 ア 事業者が当該事項を実施していること イ その実施が継続的(必要性を認識し、計画的)であること ウ その根拠が示せること	

5 評価結果のフィードバック

- (1) 評価結果及び結果分析により把握した課題については、速やかに貴事業所にてフィードバックします。
- (2) 評価結果については納得のいくまで話し合うことができます。その後、評価者が評価結果公表についての同意の有無を確認いたします。

6 評価者及び補助者

- (1) 本評価に一貫して携わる評価者は、東京都福祉サービス評価推進機構の評価者養成講習を修了しています。評価者は、顔写真の入った身分証明書を絶えず携帯していますのでご確認ください。
- (2) 利用者調査や訪問調査の際に、評価者以外の者が補助者として関与する場合があります。その場合には、貴事業所の皆様に補助者の経歴等を説明し、ご了解いただいてから関与させることとします。

7 本評価に関する苦情・相談窓口

担当者	亀井恵美子
電話番号	03-5428-5785
受付時間	9:00~18:00(土・日を除く)

以上の内容について本書面により、東京都の福祉サービス第三者評価に関する事前説明事項について事業者に説明をしました。

2022年 7月 1日

評価機関名 株式会社ウエルビー

(説明した評価者氏名) 亀井恵美子



以上の内容について本書面により、東京都の福祉サービス第三者評価に関する事前説明事項について評価機関から説明を受けました。

2022年 7月 1日

事業所名

SAKUPA保育園 谷在家

(説明を受けた方の氏名)

牛島 祐美子



1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)すべての人に愛情をもって接します。 2)子どもの最善の利益の追求し、保護者の子育てと仕事の両立支援を貫きます。 3)すべてのものを敬い、謙虚さと感謝を忘れません。 4)常に向上心・探求心を持ち学ぶ姿勢を持ち、学ぶことを考えることを怠りません。 5)人には誠を尽くします。そこから信頼が生まれます。ご縁のあるすべての人に誠尽くします。</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>1. 職場内の人間関係において協調性・協力的態度を持つ。 2. 保育士としての使命感、責任感を持つ。 3. 心身ともに健康であるということ。 4. 愛と思いやりを持つ。 5. 乳幼児を理解し、保育技術を高める。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>「サービスの基本5S」も忘れずに。①スマイル、いつも明るい笑顔で対応。②スピーディ、テキパキと機敏な行動。 ③スマート・清潔な身だしなみ。スマートなサービス。整理整頓はできているか。④シンセリティー・心のこもった誠意のある対応。誠意・熱意・好意を持つ。⑤スタディ、豊かな知識。自分から積極的に学ぼうとする意欲を持つ。</p>

調査対象	園児の保護者全67世帯		
調査方法	園児の保護者世帯に保育園より調査の趣旨を説明いただき、アンケートを配布しました。回答は評価機関へ直接返信いただきました。		
利用者総数	95		
利用者家族総数(世帯)	67		
共通評価項目による調査対象者数	67		
共通評価項目による調査の有効回答者数	48		
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	71.6		

利用者調査全体のコメント

保育園に対する総合的な満足度は全回答者48名のうち、「大変満足」と回答した方が34人、「満足」と回答した方が12名、「どちらともいえない」と回答した方が2名でした。全体の9割が「大変満足」「満足」と回答しており、満足度は非常に高いと言えます。「子どものことをよくみてくれていると思う」「親子ともに気持ちに寄り添ってもらえる」「日々の活動がブログでもみることがとてもうれしいです」といった好意的なコメントが多く寄せられていました。

利用者調査結果

実数の合計が有効回答者数と一致しない共通評価項目があります

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	45	2	1	0
全回答者48名のうち「保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っている」と回答した方が45名、「どちらともいえない」と回答した方が2名、「いいえ」と回答した方が1名でした。「集団行動によりいろいろ学べ、発達の役割を果たしていると思う」といったコメントがありました。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	45	2	1	0
全回答者48名のうち「保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっている」と回答した方が45名、「どちらともいえない」と回答した方が2名、「いいえ」と回答した方が1名でした。「保育園でやったことを家でも毎日行っています」「保育園で製作したものを家でも作っています」といったコメントがありました。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	42	5	1	0

全回答者48名のうち「提供される食事は、子どもの状況に配慮されている」と回答した方が42名、「どちらともいえない」と回答した方が5名、「いいえ」と回答した方が1名でした。「1日1日違う食材、メニューで家庭では作れない献立もあり、助かっています」「家では食が細いのに、給食をたくさん食べるようなので安心しました」といったコメントがありました。

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	42	5	1	0
全回答者48名のうち「保育所の生活で身近な自然や社会と関わっている」と回答した方が42名、「どちらともいえない」と回答した方が5名、「いいえ」と回答した方が1名でした。「赤信号、止まれ、青信号、進めと社会のルールを教わっています」「園で虫の観察などをさせていただけるので、大変助かっています」といったコメントがありました。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	38	3	1	6
全回答者48名のうち「保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されている」と回答した方が38名、「どちらともいえない」と回答した方が3名、「いいえ」と回答した方が1名、「非該当」と回答した方が6名でした。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	42	5	1	0
全回答者48名のうち「安全対策が十分取られている」と回答した方が42名、「どちらともいえない」と回答した方が5名、「いいえ」と回答した方が1名でした。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	35	10	1	2
全回答者48名のうち「行事日程の設定は、保護者の状況に配慮は十分」と回答した方が35名、「どちらともいえない」と回答した方が10名、「いいえ」と回答した方が1名、「非該当」と回答した方が2名でした。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	41	6	1	0
全回答者48名のうち「子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係がある」と回答した方が41名、「どちらともいえない」と回答した方が6名、「いいえ」と回答した方が1名でした。「小さなことでも話を聞いていただけて、感謝しています」「他のクラスの先生も話しかけてくれるので、ありがたいです」といったコメントがありました。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	42	4	1	1
全回答者48名のうち「施設内の清掃、整理整頓は行き届いている」と回答した方が42名、「どちらともいえない」と回答した方が4名、「いいえ」と回答した方が1名、「非該当」と回答した方が1名でした。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	44	3	1	0
全回答者48名のうち「職員の接遇・態度は適切」と回答した方が44名、「どちらともいえない」と回答した方が3名、「いいえ」と回答した方が1名でした。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	42	3	1	2
全回答者48名のうち「病気やけがをした際の職員の対応は信頼できる」と回答した方が42名、「どちらともいえない」と回答した方が3名、「いいえ」と回答した方が1名、「非該当」と回答した方が2名でした。「頭をぶつけたときに、すぐ病院に連れて行ってくださいました。すごく助かりました」「ちょっとした擦り傷でも丁寧に対応していただいています」といったコメントがありました。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	30	9	1	8
全回答者48名のうち「子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できる」と回答した方が30名、「どちらともいえない」と回答した方が9名、「いいえ」と回答した方が1名、「非該当」と回答した方が8名でした。「良いこと、悪いことの認識をさせてくれています」といったコメントがありました。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	46	1	1	0
全回答者48名のうち「子どもの気持ちを尊重した対応がされている」と回答した方が46名、「どちらともいえない」と回答した方が1名、「いいえ」と回答した方が1名でした。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	39	5	1	3
全回答者48名のうち「子どもと保護者のプライバシーは守られている」と回答した方が39名、「どちらともいえない」と回答した方が5名、「いいえ」と回答した方が1名、「非該当」と回答した方が3名でした。「良いこと、悪いことの認識をさせてくれています」といったコメントがありました。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	39	7	2	0
全回答者48名のうち「保育内容に関する職員の説明はわかりやすい」と回答した方が39名、「どちらともいえない」と回答した方が7名、「いいえ」と回答した方が2名でした。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	36	6	1	4
全回答者48名のうち「不満や要望は対応されている」と回答した方が36名、「どちらともいえない」と回答した方が6名、「いいえ」と回答した方が1名、「非該当」と回答した方が4名でした。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	26	7	6	9
全回答者48名のうち「外部の苦情窓口にも相談できることを伝えられている」と回答した方が26名、「どちらともいえない」と回答した方が7名、「いいえ」と回答した方が6名、「非該当」と回答した方が9名でした。				

I 組織マネジメント項目 (カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
1	カテゴリー1	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
	7/7	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している	
	評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
	○非該当	
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
○非該当		
評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	
○非該当		
●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	
○非該当		
評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		
評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	
○非該当		
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	
○非該当		
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	
○非該当		
カテゴリー1の講評		
法人や園の方針が職員や保護者にわかりやすく伝えられています 園では、職員に対し「理念・ビジョン・基本方針」など重要な方針について、入職時研修や年に1回の定期研修を通じて職員の理解が深まるよう取り組んでいます。また、運営マニュアルにおいて基本行動が定められており、職員はいつでも必要な時にシステム上から情報を閲覧することができるなど、情報の共有が行われています。一方、保護者へはパンフレットや重要事項説明書(入園のしおり)を用いて具体的な方針説明がされており、ホームページからもこれらの情報を確認することができるなど、広く一般に情報が公開されています。		
経営層が自らの役割と責任を周知し、進むべき方向性を示しています 法人は、園長会議等を通じて当該年度の事業計画や重点事項などの説明を行い、経営層の役割と責任を周知し、法人や園の進むべき方向性が示されています。園長は、職員に全体会議を通じて法人の方針や自園の事業計画の説明を行い、自らの役割と責任を明確にしています。園長は事業計画の実現に向け、全体会議、クラス会議、給食会議などを通じて職員の意見を聞きながら、様々な問題点の洗い出しが行われ、課題が解決されています。また、職員一人ひとりとのかかわりを大切にするため、定期的な職員面談が実施され、進むべき方向性が示されています。		
経営的な判断や重要な意思決定が即時に行われる機動力の高い組織運営が行われています 園で生じた重要案件は、週に1度開催される園長会議を通じて、法人への報告・連絡・相談が実施されています。園長会議には、理事長や理事が出席されることから、経営的な判断や重要な意思決定が即時に行われ、機動力の高い組織運営となっています。また、職員には全体会議やクラス会議などでの周知のほか、急を要する案件については、申し送りや園児管理システムを活用して周知されています。保護者への重要案件の説明は、保護者会を開催し周知がされていますが、内容によっては個別で対応をし、丁寧な説明が実施されています。		

2 カテゴリー2		
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(○○○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>利用者(保護者)や職員の意向が適切に把握され、事業の運営に反映されています</p> <p>事業所を取り巻く環境の把握として、利用者の意向は足立区アンケートや東京都福祉サービス第三者評価利用者アンケートを用いて、年に1回実施されています。職員の意向は、月に1回開催される全体会議やクラス会議、給食会議を通じて確認が行われるほか、2か月に1回実施する職員面談や第三者評価職員アンケートからニーズの把握や課題の抽出が行われ、園長会議を通じて事業運営に反映されています。また、東京都や足立区からの行政文書や区内の私立園長会議を通じて地域福祉の現状や福祉事業の動向について情報収集が行われ運営に活かされています。</p> <p>中・長期計画と単年度計画がしっかりと連動したものとなっています</p> <p>法人では中長期計画の策定に当たり、現状を分析する手段としてSWOT分析が活用され、具体的な方針や業務の分析が行われています。また、単年度の事業計画には具体的な中長期計画のビジョンが描かれており、これを実現するための単年度計画が策定されています。このことから、中長期計画と単年度計画がしっかりと連動したものとなっていることが確認できます。また、事業計画では、開園以来コロナの影響により開催することができなかった運動会・発表会について感染症対策を万全にして保護者が出席できる開催を目指すことが記されています。</p> <p>PDCAサイクルが循環し、経営と運営が一体となり機能していることが伺えます</p> <p>法人では計画の推進にあたり、週に一度園長会議を開催し、計画の進捗状況や問題点の洗い出し、課題に対する対策や見直しが定期的に行われています。このことにより、PDCAサイクルが循環し、経営と運営が一体となり機能していることがうかがえます。また、園長会議で協議された内容は全園で水平展開されています。一方、園側でも全体会議等を通じて計画に対する達成度合いをチェックしており、見直しや修正が必要な場合には、園長会議に提案されるなど、職員の意見が経営に反映される仕組みが構築されています。</p>		

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリー3の講評

利用者の利益の保全に組織として取り組んでいます

園では、法人の理念に「保育を必要とする乳児及び園児を日々受け入れ、乳幼児の最善の利益を追求し、保障する」掲げています。全ての子ども達の人権を尊重し、自立した誇りある人としての基礎づくりを行うために「守るべき法・規範・倫理」・「利用者の権利擁護」・「虐待防止」について規定され、職員研修が実施されています。具体的には、就業規則、服務規定、運営マニュアル等を活用し、人権研修が実施されているほか、園長会議や職員会議を通じて、子ども達や保護者の権利の保全に努めています。

虐待防止や権利を擁護する仕組みが構築されています

園長は児童虐待防止法に基づき、園児の人権の擁護、虐待の防止等の措置を講ずるため、「人権の養護・虐待防止等に関する責任者」の選定や必要な体制の整備が行われています。また、園児に対する虐待事案の早期発見及び防止のために定期的な職員研修が実施されているほか、園全体において虐待や権利擁護など子どもの権利が尊重されているかを自己評価する仕組みが構築されています。園では、園児の虐待が疑われる場合には、入所児の保護とともに家族の養育態度の改善を図ることとし、区や関係機関への通報が行われる仕組みを有しています。

地域貢献等において、今できることを積極的に取り入れ活動される様子が伺えます

園では、コロナ禍での開園となりできることが限定される中で、今できることを積極的に取り入れ活動される様子がうかがえます。具体的には、地域貢献として毎朝近隣のマンション前での清掃活動を行うほか、区が掲げる「花のあるまちかどビューティフル・ウィンドウズ活動」や「ごみゼロ地域清掃活動」に園児と共に参加し地域貢献に取り組んでいます。また、地域との関係づくりでは、ホームページを活用し「園だより」や「ブログ」を通じて園の活動や様子を公開しています。さらに、保育実習生2名の受け入れを行い、内1名の採用に結びついています。

カテゴリ-4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ-1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ-2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ-4の講評		
<p>マニュアルやチェックリストを活用した安全対策が図られています</p> <p>園外保育や散歩が安全に実施されるよう散歩マニュアル・散歩マップが作成され、「散歩時の安全管理チェック表」を用いて安全性の確認が行われています。このチェック表では毎月「マニュアル」、「持ち物」、「目的地」、「安全確認」、「緊急時対応」についての確認が行われ、見直しが必要な場合には職員間で協議をして、情報の共有化が図られています。また、これとは別に「園外保育チェック表」が作成され、年に2回職員ごとに理解度のチェックが行われるなど、リスク管理の徹底が図られています。</p> <p>ICTの有効活用により個人情報を始めとする情報管理が適切に行われています</p> <p>園では、ICT化の推進に積極的に取り組んでおり、園児管理システムを導入しています。園児の情報はID番号と紐づけられおり園内での活動が個別に記録され、その情報がリアルタイムに共有されています。また、家庭と園の生活の連続性に配慮し、子どもたちのことを共有するツールとして連絡帳アプリを導入し、保護者との連絡に有効活用されています。これらの情報システムは高いセキュリティー対策が施されており、個人情報が適切に管理されています。データ管理もクラウド方式を採用しているためデータの安全性が担保されています。</p> <p>水害等を想定した事業継続計画(BCP)の策定が求められます</p> <p>防災に対する意識が高く非常災害対策計画や災害時マニュアルを策定し、地震・水害・火災等に対する対応が行われています。中でも水害では、荒川の氾濫により園のある谷在家周辺が想定水深0.5～3m未満になるため、洪水時の避難確保計画が策定され、水害に対する避難訓練が定期的実施されるなど対策が行われています。しかし、これの非常災害対策計画等と事業継続計画(BCP)とは異なるため、災害時に重要業務が中断しない、または、重要業務が中断したとしても目標期間内に再開することができる計画の策定が求められます。□</p>		

5 職員と組織の能力向上			カテゴリ-5
サブカテゴリ-1(5-1)			
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賞金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○非該当
サブカテゴリ-2(5-2)			
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる		○非該当

カテゴリー5の講評

職員が計画的にかつ積極的に研修に参加できる仕組みが構築されています

園では、研修計画に基づき内部研修と外部研修が行われています。内部研修では、職員間のコミュニケーションを活発化し知識・情報を共有化することを目的に月別のテーマが決められており、職員は自分の希望にあった研修を自主的に受講することができます。一方、外部研修では、業務に応じた研修やキャリアアップ研修への積極的な参加を推奨しており、研修受講後は「研修参加復命書」により研修の報告が行われ、全職員へ回覧することにより情報共有が行われています。また、指導を担当する職員を対象に外部講師によるリーダー研修が行われています

キャリアパスや職員研修の充実を図り、ワークライフバランスの推進を行なっています

法人では、「職務資格等級フレーム」により、階層や年齢に応じたキャリアパスが定められています。研修体系においても「階層別に求められる専門性」に配慮した研修体制が構築されており、キャリアパスと研修計画が連動しています。また、園では職員の意欲向上への取り組みとして、ワークライフバランスを推進しており、「足立区ワークライフ・バランス推進企業分野別マスター認定書」を受けています。さらに、ソエルクラブ(社会福祉法人福利厚生センター)への入会を行うなど、職員が意欲と働きがいの向上に取り組んでいます。

組織としての学びやチーム力の高さと職員のモチベーションの向上が図られています

園では、職員一人ひとりが学んだ研修報告を職員会議や回覧により共有し、知識の向上が図られています。サービスの質の向上や業務改善については、クラス会議や職員会議で話し合わせ、園長会議に報告され改善が図られています。また、課題解決に向け「施設の自己評価」と「職員の教育・保育の自己評価」が行われ、問題点の洗い出しと課題を抽出して、PDCAサイクルが回されています。これらを通じて、組織としての学びやチーム力の高さと職員のモチベーションの向上が図られています。

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリ-1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
<p>評価項目1</p> <p>事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)</p> <p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p> <p>園では、前年度の重要課題として、「新しい職員に法人理念を浸透させていく」ことが掲げられており、目標設定として「会議や園児管理システムを用いて理念を浸透させていく」ことが挙げられています。本園は、令和2年4月に新規開園に伴い新規採用を行っており、令和4年4月にも新たに4名の新入職員が入職することから、理念や運営方針を浸透させていくことは極めて重要な取り組みとなります。そこで、理念や運営方針、保育目標など様々な取り組みが、しっかりと職員と共有でき協議できる場として会議体の設置が行われています。具体的には、全体会議(月1回開催)、給食会議(月1回開催)、リーダー会議(随時開催)、クラス会議(随時開催)が設置されています。また、理念や運営方針の浸透を促すために、新任研修や内部研修が定期的実施されているほか、園児管理システムや業務マニュアル等を活用しています。さらに、園長による職員面談が定期的に行われ、職員の考えや意見を確認できるほか、法人や園のビジョンを個別に伝えることができています。これらのことから、理念の浸透による取り組みは一定の成果があげられ、来年度以降も取り組みが継続されています。</p>	
目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"> ● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"> ● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p> <p>本園は開設3年目を迎える中で、園児の入園状況や職員の配置状況も順調に推移しています。前年度の重要課題として「新しい職員に法人理念を浸透させていく」、目標設定として「会議や園児管理システムを用いて理念を浸透させていく」ことが掲げられています。これらに対する具体的な取り組みとして、①各会議体を設置し「クラス会議」→「リーダー会議」→「全体会議」→「園長会議」といった情報の流れをつくり、仕組みとして落とし込まれています。②理念や運営方針の理解度の向上には研修制度が活用され、研修報告書により理解度を確認しています。③園児管理システムや業務マニュアルを活用し運用が行われています。④園長による職員面談が実施され法人や園の考え方がすり合わされています。また、園では職員の働きやすい環境を整備するため、東京都の働きやすい福祉の職場宣言事業所の認証取得、足立区のワーク・ライフ・バランスの認定取得を行うなど、職員が安心して働ける労働環境の整備が進められています。また、入園を希望する保護者には重要事項説明書(入園のしおり)の中で、事業の目的・法人理念、運営方針が具体的に説明されるなど理解を深まるよう取り組んでいます。</p>	
<p>評価項目2</p> <p>事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)</p> <p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p>	

前年度の重要課題として「園児管理システムを使用し、全ての職員が情報を共有できるようにする」ことを課題に設定しています。理由として、園児管理システムは全職員を結ぶ重要なコンテンツであり、ICT化は業務の効率につながることで挙げられています。具体的な取り組みとして、これまでは、常勤職員を中心に園児管理システムの教育と運用が行われてきましたが、非常勤職員を含む全ての職員において情報を共有化するため、令和4年4月からは非常勤職員においても勉強会やOJTを実施し、システムを使用することができるよう教育が行われました。また、ICT化を促進するため、あわせて連絡帳アプリやブログの活用が行われています。その結果、非常勤職員を含めた全職員によるシステムの活用ができており、情報共有はシステムを中心に行われ、確実な運用が進められています。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む) ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

法人では、積極的なICTの導入が進められ、業務の効率化・情報の共有化が図られています。園の運営を支援するシステムとして、園児管理システムや連絡帳アプリ、ブログなどが活用され非常勤職員を含めた全ての職員においてシステムの運用が行われており、課題の取り組みの成果が確認できます。また、これらの情報システムは高いセキュリティー対策が取られており、個人情報適切に管理されています。さらに、データ管理もクラウド方式を採用しているため、データの安全性においても担保されています。尚、令和3年度から導入された「組織・人材育成システム」は運用を行う職員の負担が大きいため使用を見合わせています。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリ-1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		
		評点(〇〇〇〇)	
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
	●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当
	●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
	●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
	サブカテゴリ-1の講評		
	法人のホームページには保育園の情報が余すことなく公開されています 同法人は本部のある熊本と都内に2か所の認可保育園、3か所の小規模保育園を展開しています。法人のホームページでは、それぞれの保育園の取り組みを紹介しています。重要事項説明書(入園のしおり)がアップされており、入園のしおりには法人の理念や基本方針はもちろんのこと、入園手続きの流れから退園について、保育計画、保育プログラムなど希望者が知りたい情報が公開されています。また、園だよりやクラスだより・保健だより・食育だよりもホームページで紹介されており、広く保育園の活動が公開されています。		
	園児たちの日々の様子がブログでこまめに紹介されています ホームページには、ブログのページもあり、実際の園児の活動がこまめに更新されています。戸外遊びや製作活動、給食のメニューなど園児が笑顔でいきいきと保育園で過ごしている様子がたくさん掲載されています。園では写真などを多数掲載することによって視覚的に園の雰囲気を知ってもらうことを考慮しており、ほぼ毎日更新されています。保護者からブログが見つらなくなったという意見に対し直ちに改善をし、園の活動を広く普及することに力を入れています。さらに、区が提供する媒体など公的媒体で保育園の情報が紹介されています。		
	コロナ禍であっても見学できる一定の期間を設けてきめ細かく対応をしています コロナ禍であるため、見学には園長や副主任が個別で一定の期間を設けて対応をしています。10月から希望を提出してもらい11月に見学を行っています。見学の際には重要事項説明書(入園のしおり)に沿って、園の教育・保育の方針(脳科学やスポーツ理論、食育、五感教育、装教育)や多彩な保育プログラム(運動遊び/身体遊び、英語のヒアリング、プログラミング遊びや読み遊び、科学遊びなど)などについて丁寧に説明をしています。見学者の情報は、園で使用しているシステムに内容を入力して管理をしています。		

サブカテゴリー2		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリー2の講評			
<p>面談表を用いて、個人面談で園児の状況を細かく収集しています</p> <p>見学時に、重要事項説明書(入園のしおり)を用いて、説明を行っています。重要事項説明書には、入園時に必要な書類も掲載されており、入園の決定後はそれら書類一式を事前に送り、記入をいただき個人面談を行っています。面談では、事前に用意いただいた書類等について保護者と園側で互いにチェック表を用いて漏れなどが無いかを確認しています。また、事前に聞き取るべき内容についてまとめられた面談表を用いて、園児の状態、保護者の希望などを聞き取ります。説明が一方向的にならないよう気をつけながら、丁寧に対応しています。</p> <p>慣れ保育日誌に基づいて少しずつ時間を延ばしていきます</p> <p>入園後は、生活環境が変わるため、新しい生活に馴染むには時間がかかる子どももいます。不安を訴える子どもには職員が1対1で関わり、応答的な保育で愛着形成に努めています。また、子どもの様子や保護者の状況に応じて、慣れ保育日誌を作成して保育時間を少しずつ延長しています。初めての子育てには保護者にも不安があります。お迎えの時にはその日の子どもの様子などを伝え、必要に応じて個人面談も随時受け付けています。4月1日には入園ガイダンスを開催して、担任と一緒に写真撮影をして、保育園での新しい生活が始まります。</p> <p>退園に際して、園で過ごした思い出のアルバムを制作して渡しています</p> <p>設立から3年が経ち、前年度は、人数を制限して卒園式を行いました。また、年度途中で退園した子どもには、職員が保育園で過ごした日々をアルバムにまとめ、製作物とともに渡しています。小学校入学のために、幼保小連携活動年間計画書を作成して、保護者にも情報提供を行っています。また、障害がある子どもが卒園をして小学校に入学する際には、園長と担任が学校長を訪問して話し合いをしながら、スムーズに学校生活に移行できるよう支援しています。</p>			

サブカテゴリー3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直しをしている	○非該当
評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当
サブカテゴリー3の講評		
子どもの年齢に応じて、計画立案・評価をシステム上で管理しています 保育計画・評価・ケア記録は園の管理システムで一体的に管理されています。0歳児は、個別に保育計画を作成して成育状況を把握しています。また2歳児までは、個別に月間個別計画を作成して毎月評価を行っています。3～5歳児は「主体性を尊重し5領域の様々な保育活動の総合力と五感を大切に徳・知・体のバランスのとれた発達を目指す」ことを目標とした月案を作成して、四半期ごとに評価を行っています。管理システムには特記事項をチェックすると月案に反映され、どの子どもにも応じた計画が作成されます。		
クラスだよりを毎月発行して、今月のねらいを保護者にお知らせしています それぞれのクラスの指導計画は、今月のねらいとしてクラスだよりで保護者にお知らせをしています。クラスだよりは写真やイラストがふんだんに盛り込まれ、非常に見やすくまとめられています。保護者とのコミュニケーションは、お迎えでその日の様子を伝えたり、連絡アプリを使用し交わっています。毎月の園だより、クラスだより、保健だよりや食育だよりは連絡アプリに配信されチェック機能も搭載されており、保護者がどこでも確認できるシステムとなっています。希望者には紙媒体での提供も行っており、子どもの成長を詳細にお知らせしていません。		
管理日誌で申し送り事項などを確認して職員間の情報共有を行っています 申し送り事項や翌日の予定確認などは、管理日誌を確認することとしています。1日に3回更新されているため、常に時間を把握して確認することを徹底しています。また、システム上にある保護者送迎備忘録を出勤時には確認をして、その日の子どもの状況を把握しています。当園には担任を持たないフリーの職員もおり、保育日誌の日案を確認しています。さらに、毎月1回主任が事前に議題についてリサーチをして、議題を提案しクラスの問題点などを職員間で共有して議論しています。		

サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和りとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリー5の講評		
<p>個人情報保護や写真の使用などについて詳細に説明をしています</p> <p>園ではブログなどで多数の子どもたちの写真を掲載しています。利用開始前の面談では、個人情報保護写真等確認票をもって写真の使用について説明を行い、さらに外部に必要に応じて、個人情報のやり取りについて同意を得るために個人情報使用同意書を交わし、それぞれ保護者からの同意を得ています。クラスだよりには、ホームページにも掲載されるため、子どもの個人名ではなくイニシャルを使用しています。また、職員にも園外では園児の話や、行事などの話はしないよう日々指導をしています。</p> <p>子どもの尊厳や価値観を大切にして、羞恥心への配慮も行っています</p> <p>子どもの権利を尊重することを第一と考え法人の理念やクレドにも明記されており、自分がされて嫌なことは子どもたちにもしないことを念頭に支援しています。また、子どもたちにも言ってはいけないことを言ったり、人を傷つけることがないように教えています。プライベートゾーンの話などもクラスで話をして男女の差についても伝えていきます。プール遊びで着替えをするときには、男女分かれて行い、おむつを替えるときにははいたてを替えるなど、子どもの羞恥心にはきめ細かく配慮をしています。</p> <p>個別の面談を重ねることで、保護者の気持ちにも寄り添っています</p> <p>虐待防止に対する取り組みとして、気になる子どもについて担任と看護師がチェックをしています。登園時に傷などがあった場合には、後々大きなトラブルにならないよう、保護者への対応策として、全身チェック表などを用いて備忘録に記載をしています。保護者の生活習慣や子育ての姿勢が園の考え方と異なる場合には、個別に面談を園より申し出をして、保護者に寄り添いながら、互いに歩み寄ることができるよう話し合いを重ねています。</p>		

サブカテゴリー6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリー6の講評		
<p>法人策定のマニュアルに基づき園独自のマニュアルも作成しています</p> <p>法人が策定した業務マニュアルは、「教育・保育の基本」「勤務の心得」「身だしなみ」「管理システムの使い方」など業務における必要な20項目以上にわたる事項についてまとめられており、各クラスに設置されています。中でも、子どもの人権を守るためにその場面に応じて「このような言葉は使いません」「このように話します」と具体的な言葉を対比して示しており、非常に理解しやすくまとめられています。また、より現場に即したサービス提供を行うため、足立区のガイドラインを基本とした園独自のマニュアルも整備しています。</p> <p>職員や保護者からの意見も取り入れて、定期的にマニュアルを見直しています</p> <p>コロナウィルスの蔓延により緊急事態宣言が出された際には、休園せざるを得ない状況がありました。休園中は、マニュアルの読み込みを職員全員で行い、オンラインでの職員会議で意見を吸い上げ、マニュアル改訂に着手しました。現在、衛生面への対応は第一の優先事項であり、理事長・園長・看護師が中心となってマニュアルの改訂を進めました。新人職員にはマニュアルの読み込みを指示しています。開設から3年経過しようとしています。定期的にマニュアルは見直しを図り、業務の標準化に積極的に取り組んでいます。</p>		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	35/35
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている			
		評点(000000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		○非該当
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>手作りおもちゃなどを活用し、子どもたちが主体的に遊びこめる工夫をしています</p> <p>子どもたち一人ひとりの発達の様子や生活環境などについては、園児管理システム内の個別ケア記録にその都度記載して、全職員で共有しています。朝7時半から9時までと午後4時半以降の自由遊びの時間帯や、様々なカリキュラムの合間の時間などには、子どもたちが主体的に遊びを選べるよう、ブロックやパズル、粘土など遊びのコーナーを分けた環境設定を行っています。また、ぽつとん落としや絵合わせカードなど、職員手作りのおもちゃも活用して、異年齢での交流も行えるようにしています。今後はさらに多文化に触れる機会の提供なども期待します。</p> <p>特別に支援が必要な子どもについて、他施設と連携した保育の仕組みを構築しています</p> <p>子ども同士でトラブルが発生した場合には、どうしてこうなったかなど、気持ちを一人ひとり聞き、どうすれば良かったのかを一緒に考えるなどの対応をしています。また、水遊びや外遊び、音楽、ダンス、制作などの活動内容を絵で現したカードを活用し、今日行うことなどを目で見てわかるようにしています。発達に課題があり1対1でサポートが必要な子どもは、午前中は同一法人が運営する通所施設に通い、昼食から園で他の子どもたちと集団活動に参加するなど、園独自の保育体制を構築し発達を促す取り組みを行い、言葉が増えるなどの成果が出ています。</p> <p>区の幼保小連携活動に参加し、職員や子どもたちの交流を図っています</p> <p>卒園していく子どもたちが円滑に小学校教育になじめるように、生活や学習の基盤を育成するためにアクティブラーニングなども用いています。また、区の教育委員会が行っている幼保小連携活動に参加し、年長児の近隣小学校への訪問や体験給食、職員と教師による相互の交流研修などに取り組んでいます。特に気になる子どもの引継ぎについては、園長が学校に出向いて様子を伝えています。コロナ禍で研修会や学校訪問などが中止になってしまう現状の中で、小学生との手紙や映像のやり取りによる交流など、さらなる工夫も期待されます。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排泄などの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>連絡帳アプリを活用し、家庭との連携を密にして子どもの生活の安定を図っています</p> <p>園では、開園当初より連絡帳アプリを導入しています。子どもたち一人ひとりの家庭での様子や健康状態、園での出来事や連絡事項などをアプリで共有し、日々の生活が安定するよう努めています。連絡帳で伝えられた気になる情報などは園児管理システムの個別のケア記録にも記録されて、全職員で共有できるようにしています。職員は、朝の出動時と昼、夕方の帰宅前の1日3回、管理日誌や各クラスの保育日誌、保護者送迎簿忘録などに目を通して、子どもたちの様子を把握して保育に当たっています。お迎えの際には、保護者との会話も大切にしています。</p> <p>毎月の指導計画でねらいを立て、基本的な生活習慣が身につくように働きかけています</p> <p>食具の使い方や衣服の脱着、トイレトレーニングなどについては、各クラスの子どもの発達の様子を見ながら、月案の中に目標を立てて少しずつ自分でできるように働きかけています。園での子どもたちの様子を個別に保護者にも伝えて、家庭での様子も聞きながら個別のねらいを立て、家庭と一緒に進められるようにしています。各クラスの保護者会やお便りなどを通して、その年齢の子どもの発達を促すかわり方や、生活習慣の大切さなども保護者に伝えています。さらに子どもの成長の様子を保護者と共有できる、新たな取り組みも期待します。</p> <p>3歳児以上は個別の発達に合わせて、少しずつ午睡をなくす取り組みをしています</p> <p>3歳児以上の子どもたちの午睡については、その子の体力や睡眠の状況など発達の様子をみながら個別に家庭の要望を聞き、必要な子だけが寝られるようにしています。午睡が必要でない子どもたちは、別室で自由に遊べます。0、1、2歳児についても、早く起きてしまった子には無理強いをせず遊べる環境を用意しています。4、5歳児クラスの子どもたちはほとんど午睡をしません、その日の体調などにより、眠りたい子は個別に寝られるようにしています。この取り組みは夜の睡眠への影響が出ないことから、保護者からも好評です。</p>		
3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>0歳児クラスから朝の会を行い、見通しをもって日中活動に取り組めるようにしています</p> <p>朝や夕方の自由遊びの時間帯には、パズルやブロック、粘土など遊びのコーナーを分けて、クラスにかかわらず好きな遊びを選べるようにしています。子どもたちにどんな遊びをしたいかを聞いてそのおもちゃを出すなど、自主性を引き出す援助をしています。朝の遊びが一段落した9時ごろから、各クラスに分かれて「朝の会」を行っています。0歳児から全クラスで行っている朝の会が次の集団活動にスムーズに移行するきっかけになっています。ダンスや制作など一つひとつの活動を絵カードにして貼りだし、子どもたちが見通しを持てるようにしています。</p> <p>ダンスや楽器遊び、体操など、多様な表現活動が楽しめるプログラムを用意しています</p> <p>手遊びや毎月の歌、絵本などを保育に活用し、言葉の発達を促すかわり方を大切にしています。また、運動理論に基づいた体操教育を中心に、英語やプログラミング、化学遊び、ダンスや楽器、季節の制作など多彩なカリキュラムを取り入れて、子どもたちの表現活動の幅を広げる取り組みをしています。幼児クラスでは、お当番さんが朝の会で出欠や天気の確認をしたり、自分の気持ちや休日の過ごし方をみんなの前で発表するなどの機会も設けています。3歳児以上には「竹の決まり」などにも触れて、決まりを守ることの大切さを伝えていきます。</p> <p>散歩や野菜の栽培などを通して、子どもたちが季節の変化を感じられるようにしています</p> <p>園内では、メダカやエビ、カブトムシなどの小さな生き物の飼育をしたり、朝顔やひまわり、キュウリ、小松菜などの花や野菜の栽培もしています。歩いて行ける範囲に複数の公園があり、自然に触れ合い、季節の移り変わりを感じながら遊べるようにしています。夏は園のテラスで毎日水遊びを楽しんだり、秋にはどんぐりや落ち葉で工作を行うなど季節の変化を感じられるような工夫をしています。チーム名を自分たちで話し合ったり、行事のスローガンを話し合ったり、子ども同士で意見が言い合えるような環境づくりもしています。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>行事のスローガンを子どもたちで決めるなど、意欲的に取り組めるようにしています</p> <p>節分やひな祭り、七夕や夏祭り、ハロウィンごっこなどの季節の行事の他に、秋の遠足や運動会、発表会などの行事を行い、日常の保育に変化と楽しみ持てるようにしています。子どもたちの行事に対する興味や関心を引き出すために、幼児クラスでは、「まず何をやりたいか」、「どんな風にやりたいか」などについて話し合うことから始めています。毎年、運動会や発表会の目標を年長クラスの子どもたちが意見を出し合い、スローガンにまとめています。行事の出し物やグループ名、飾りつけなどに子どものアイデアを取り入れるよう取り組んでいます。</p> <p>園での日頃の取り組みを通して、成長した様子を発表できるようにしています</p> <p>運動会や発表会など保護者が参加する行事は、日頃の保育の取り組みやその中で成長した子どもたちの姿を見てもらうことを目的と考えています。例えば、側転や逆立ち、逆立ち歩き、跳び箱、楽器の演奏など、普段から取り組んでいる体操や音楽遊び等のカリキュラムを通して、子どもたちが少しずつできるようになったことを保護者の前で披露することで、子どもたちの自信にもつながっています。小さいクラスの子どもたちも、毎月計画的に実施している歌やダンスから、子どもたちの好きなものや興味のあることなどを取り上げて行事に取り入れています。</p> <p>クラスだよりやブログを通して、子どもたちが取り組む様子を保護者と共有しています</p> <p>七夕などの伝統的な季節の行事については、その由来や言い伝えなどについて、各クラスごとに紙芝居やペープサート、写真などを取り入れてわかりやすく説明しています。そんな取り組みの様子やスイカ割りや水遊びなどの活動は、毎月発行しているクラスだよりや、毎日配信しているブログ、連絡帳アプリなどを通して、保護者とも共有しています。コロナ禍で、行事への保護者の参加を制限せざる負えない時期もありましたが、参加できなかった方には、行事の様子をDVDにして渡したり、オンラインの懇談会で映像を見てもらうなどの工夫をしています。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>夕方の自由遊び以降は、その日の様子でクラスごとに過ごせるようにしています</p> <p>毎日16時頃にクラスごとに行われる「帰りの会」以降は、夕方の自由遊びの時間となり、子どもたちは好きな場所で遊んで過ごせるようにしています。遅番保育の時間帯の遊びの部屋を前もって固定するのではなく、だんだん人数が少なくなって来たら、今、子どもたちがどのクラスに何人いるのかを把握して、その日の状況に応じて過ごす部屋を決めるように配慮しています。延長保育の時間帯に入ると、人形やミニカーなど、その時間帯専用の目新しいおもちゃも出せるようにして、子どもたちが飽きずにゆったりと過ごせるようにしています。</p> <p>遅番専任の職員を配置して、子どもたちや保護者の不安解消に努めています</p> <p>保護者の就労形態等により、忙しい方々を支援することを目的に、19時半には夕食の提供も行っています。延長保育以降の時間帯には、毎日交代で担任も残りますが、同じ正規職員がいつもいられるような配置の配慮をしています。お迎えの際に保護者が担任と会えない日でも、毎日同じ職員がいることで、子どもたちの様子も十分把握することができ、保護者が安心できるようにしています。保護者への伝達事項などは、管理システムで共有し確実に伝えられるようにしていますが、特に大事なことがある場合には、担任が残って直接伝えられるよう努めています。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(0000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している		○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している		○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている		○非該当
評価項目6の講評			
<p>行事にちなんだ給食なども取り入れて、楽しんで食べられるようにしています</p> <p>調理室の運営は外部業者に委託していますが、園の栄養士がおいしさや栄養バランスを考慮した献立を作成しています。七夕には星形のゼリーや天の川に見立てたそうめん、夏祭りには屋台風の焼きそばや唐揚げなど、行事にちなんだメニューを給食に取り入れて、楽しさを盛り上げています。身体の中から生きる力を育むために、「食育」にも力を入れています。幼児クラスではピザやクッキーなどの調理保育やトウモロコシ、ソラマメの皮むき等のお手伝いも行っています。乳児も食材に直接触れる体験などを行い、食への興味関心を広げる取り組みをしています。</p> <p>毎月テーマ野菜を決めて、各クラスごとに「やさいの日」を設けています</p> <p>年間の食育指導計画では、毎月野菜の日の取り組みとして、4月は春キャベツ、5月はアスパラガス、6月はそら豆など、月ごとにテーマ野菜を決めて各年齢に応じた取り組みをしています。キュウリやオクラ、小松菜などを園内で子どもたちが栽培し、給食で提供をしています。スイカ割りの際には、写真などを使ってスイカが成長していく様子を子どもたちに教えながら、自然の恵みや命をいただくことへの感謝の気持ちなども感じられるようにしています。旬の野菜や果物、魚などをカラフルな絵にして貼り出し、食材への関心も深めています。</p> <p>区や家庭と連携した食育を推進するために、情報提供を行っています</p> <p>「食育」の推進においては、園と家庭とが連携して取り組むことが重要と考えています。そのため、食育だよりや掲示板を活用して、園での食育の取り組みや正しい食具の使い方、おやつ役割やカルシウムの話など様々な情報提供を行っています。また、区の食育月間や嚙むカムデーなどのポスターも掲示して、周知を図っています。家庭での食事に関する保護者アンケートを行い、結果を共有するなどの取り組みも行っています。子どもたちに人気のあるメニューのレシピを冊子にまとめて、卒園の際にプレゼントをして、保護者からも大変喜ばれています。</p>			
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている		○非該当
評価項目7の講評			
<p>子ども自身が健康に関心を持てるように、年間計画に基づいた保健指導を実施しています</p> <p>「心身ともに健康なからだを育てる」「子ども自らが健康と安全に関する力を身につける」を年間目標とした保健計画を作成しています。その計画に基づき看護師が子どもたちに、うがいや手洗い、歯磨き、目の話、園での生活や遊びのルール、生活リズムなどについて指導を行う時間を設けています。ペープサートなども活用して子どもたちにわかりやすく説明する工夫を行い、子どもたちが自分で自分の安全や健康を守るようにしています。戸外で積極的に体を動かしたり、日々の体操プログラムなどを通して、子どもたちの体力づくりにも力を入れています。</p> <p>看護師による職員向けの保健学習を行い、子どもたちのケアに努めています</p> <p>緊急対応マニュアル等に基づき、職員を対象にした「心肺蘇生」や「食物アレルギー」、「誤飲や睡眠時の事故」、「熱性けいれん」、「嘔吐処理」などについての学習会を行っています。アレルギーや熱性けいれん、アトピーや喘息など、医療的ケアが必要な子どもに対して、近くにいる職員が誰でもすぐに対応できるように、情報の把握と共有にも努めています。嚥下医や子どものかかりつけ医などとも連携して、子どもたち一人ひとりの健康維持に向けた取り組みを行っています。今後は職員の心身の健康促進に向けた、さらなる取り組みにも期待します。</p> <p>毎月の保健だよりなどを通して、保護者に健康情報を提供しています</p> <p>園内で感染症などが発生した場合には、一早く情報を掲示して保護者にお知らせしています。園内ではまだ流行してなくても、区内で発生している感染症などがあれば、併せてお知らせして注意喚起をしています。また毎月発行している保健だよりでは、「歯やお口の健康」、「夏のスキンケア」、「季節ごとの感染症対策」など様々な健康情報を掲載しています。連絡帳アプリを活用して日々の健康状態や睡眠時間などの共有を図り、保護者と連携して子どもの健康を守る取り組みをしています。与薬依頼書(同意書)に基づき、1回分の薬を預かって</p>			

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている		○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している		○非該当
評価項目8の講評			
<p>保護者の子育てと仕事の両立支援を保育目標に掲げて、丁寧な対応を心掛けています</p> <p>子どもの最善の利益を追求し保障すること、保護者の子育てと仕事の両立を支援することなどを、園の保育理念としています。保護者が安心して就労を継続できるよう、急な延長保育への対応や夕食の提供などもしています。連絡帳アプリを活用して、健康状態や家庭での様子、保護者の困りごとなども共有し、必要に応じて個別面談などの時間を取り相談にのっています。園での活動の様子はクラスでの掲示やブログ、連絡帳アプリなどで日々伝えていますが、お迎えの際には保護者と直接話をするなど、一人ひとりと丁寧に関わることが大切にしていきます。</p> <p>園での活動をできる限り可視化して、保護者との共通認識を図れるよう努めています</p> <p>保護者との信頼関係を深めるために、園での子どもたちの様子をできる限り保護者から見えるようにしていくことが大切と考え、毎日ブログを更新してその日の活動内容を紹介しています。行事や日中の様子をDVDにして保護者会の際に見てもらったり、写真をたくさん使ったクラスだより発行するなど、子どもたちの成長の様子や発達を促すための園の取り組みなどについても、保護者と共有できるように努めています。コロナ禍では、オンラインによる保護者会を全クラスで実施するなどの工夫もしています。クラスで1名ずつ順番に保育参観も実施できました。</p> <p>保護者同士の交流を図るために、さらなる工夫も求められます</p> <p>保護者の養育力向上の一助となるように、保護者が参加できる講演会を外部の専門家を講師に招いて実施しています。講演会の前には保護者アンケートを行い、困りごとなどに対して講師から答えてもらいます。コロナ禍で新たに開園した園であるため、行事への保護者の参加が制限されたり、保護者懇談会などでゆとり時間をとり、保護者同士の交流が行えるような機会はなかなか取れない状況で今日を迎えています。クラスだよりやクラスの掲示板等を活用して保護者同士が情報交換を行えるようにするなど、さらに工夫をしていくことも望まれます。</p>			
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している		○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している		○非該当
評価項目9の講評			
<p>公園の清掃や花の栽培など、子どもたちが地域行事にかかわれるよう取り組んでいます</p> <p>区が実施している「ゴミ0運動」や「花いっぱいキャンペーン」に園が積極的に参加して、近隣の公園の清掃活動や園内でひまわりの花の栽培などを実施しています。卒園後も地域の一員として育っていく子どもたちにとっては、このような活動を通して地元を知り、地域に親しみを感じる良い機会となっています。散歩で公園などに出かけた際には、遊びに来ている他の親子と一緒に遊んだり、清掃活動をしている高齢者と挨拶を交わすなど、よい交流の機会となっています。図書館等の公共施設活用し、さらに様々な体験の機会を設けていくことも期待します。</p> <p>子どもたちが職員以外の人と交流できるように、さらなる取り組みが求められます</p> <p>地域の方を園の行事や講演会に招いたり、高齢者施設との交流などの計画を立てていましたが、コロナ禍により実施できない現状となりました。コロナが落ち着いたら、積極的に交流する機会を作る予定です。地域で趣味のサークルやボランティア活動などに取り組む方々の情報を集めて定期的に園に招くなど、子どもたちが様々な世代の地域の大人や子どもたちと交流できるよう、さらなる取り組みを進めていくことも求められます。また園の専門性や体操などのプログラムを活用して、未入園の親子に向けた情報発信など、地域支援事業にも期待します。</p>			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
タイトル①	同一法人が持つ障がい児通所支援施設と連携し、充実した個別支援保育を行っています	
内容①	子どもたち一人ひとりの発達を定期的に確認し、管理システム内の個別ケア記録に入力しています。このシステムはクラスの担任以外の職員も1日3回は確認して、共有しています。子どもたちの個別の発達に合わせて、必要な時期に必要な活動を提供する適時性の保育を大切にしています。とりわけ、個別の配慮が必要な子どもたちの保育にあたっては、午前中は同一法人が運営する通所施設で療育を受け、午後は保育園で各クラスでの集団活動を体験することができるようにしています。区の巡回相談やこども支援センターとも連携し充実した支援を行っています。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	5-1-1	事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている
タイトル②	働きやすい環境づくりのために、フリーの職員を配置しています	
内容②	思い通りに有給がとれないといったことは、どの業界でも聞かれることですが、当園ではワークライフバランスについて積極的に取り組み、特に年間休日取得日数を120日以上とっています。実際、職員からも休みがとりやすいといった声もあがっています。こういった環境を支えているのは、4名のフリーの保育士です。毎日3名のフリーの保育士が配置され、体調不良や家庭の事情などにより、急に保育士が休むことになったときでもそのクラスに入ることができる体制を作っています。これにより、法定の職員配置よりも1名多くなっています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	4-2-1	事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている
タイトル③	ICTを駆使した高いセキュリティー対策と情報の一元管理が行われています	
内容③	法人では、積極的なICTの導入が進められ、業務の効率化・情報の共有化が進められています。園の運営を支援するシステムとして、園児管理システムや連絡帳アプリ、ブログなどが積極的に活用され非常勤職員を含めた全ての職員においてシステムの運用されており、情報の一元管理が行われています。また、これらの情報システムは高いセキュリティー対策が取られており、法人が定める個人情報保護規定に基づき適切に管理されています。さらに、データ管理もクラウド方式を採用しているため、データの安全性が担保されています。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	中・長期計画が具体的で実行性の高いものとなっています
	内容	法人では中・長期計画の策定に当たり、現状を分析する手段としてSWOT分析が活用され、具体的な方針や業務の分析が行われています。また、理念を実現するためのビジョンや6つの視点(①利用者の視点、②法人組織・役員に関する視点、③人材育成・組織力向上等の視点、④財務の視点、⑤地域・公益の視点、⑥業務プロセスの視点)が描かれ、これらを実現するための「実行計画」、「目標値」、「責任者」、「担当者」が明確になっています。このことにより、事業方針が明確になり、中・長期計画がより具体的で実行性の高いものとなっています。
2	タイトル	体操を中心とした多彩なカリキュラムを取り入れた、保護者満足度の高い保育を提供しています
	内容	本園は、身体作り理論に基づく運動トレーナー資格を持つ職員を、正規職員として配置しています。3歳以上の幼児クラスでは、体操を中心として、読み書きや音楽など、多彩なカリキュラムを取り入れています。また、子どもたちの自発性を養うために、自由遊びの時間帯には、おもちゃのコーナーを分けて好きな遊びを選べるようにしたり、運動会や発表会のスローガンをみんなで話し合っ決めて決めるなどの工夫をしています。子どもたちの身体の発達状況などに応じて3歳から少しづつ午睡をなくすなどの様々な取り組みは、保護者満足度を高める要因となっています。
3	タイトル	職員会議や個人面談の定期的な実施により、経営層と職員間の良好な関係性が深まりました
	内容	昨年度までは、会議などの在り方を検討し経営層と職員との相互理解を深めることが課題として挙げられていました。今年度は、土曜日に職員全員が参加する会議を設け、さらには園長や主任、副主任との個人面談を2か月に1度設けることで、職員一人ひとりの迷いや不安などに耳を傾ける機会を設定しました。こういった取り組みを行うことで、職員からも共通理解が増え、相談できる環境についての一定の評価が得られました。職員は宝であると考える園の方針を体现化することにより、経営層と職員間の風通しの良い関係が築かれました。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	地域の一員として、子どもたち多様な施設や大人と交流できる機会を増やしていくことも求められます
	内容	コロナの始まりと共に開園した保育園であり、当初計画していた高齢者施設との交流など、地域と連携した子どもの多様な体験を増やす活動ができない状況のまま今日を迎えています。そんな中でも、今年度は区が行っている「ごみの運動」や「花いっぱいキャンペーン」にエントリーして、子どもたちがいつも遊びに行く公園の清掃や園内でひまわりの花を育てる活動に取り組みました。さらなる地域資源を活用し、子どもたちが公共施設の利用体験をしたり、職員以外の多様な世代の大人と交流し、地域の一員として受け入れられる環境づくりも求められます。
2	タイトル	自然災害など深刻な事故に備えた、事業継続計画(BCP)の策定が求められます
	内容	園では自然災害など深刻な事故に備え、非常災害対策計画や災害時マニュアルを策定し、地震・水害・火災等に対する対応が行われています。中でも優先順位の高い水害では、荒川の氾濫により園のある谷在家周辺が浸水想定区域に当たるため、洪水時の避難確保計画が策定され、水害に対する避難訓練が定期的実施されています。しかし、これの非常災害対策計画等と事業継続計画(BCP)とは異なるため、災害時に重要業務が中断しない、または、重要業務が中断したとしても目標時間内に再開することができる計画の策定が求められます。
3	タイトル	マニュアルの活かし方への工夫により、より一層の業務への標準化が期待されます
	内容	法人で作成された業務マニュアルは、大切にしている法人理念、保育目標を実現するために多岐にわたり、様々な分野での項目が緻密に詳細にまとめられています。また、新人職員のためのマニュアルも設けられており、業務の標準化には非常に役立つものと思われます。クラスごとに配置されいつでも閲覧が可能ですが、残念ながら、読み込み理解を進める十分な時間がないことが課題として挙げられています。内容的には非常に質の高いものとなっていますので、読み込む時間を1日のどこかで取り入れるようなシステムの工夫が期待されます。